

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-133	20-034	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Cannabis and Alcohol Co-Use in a Smoking Cessation Pharmacotherapy Trial for Adolescents and Emerging Adults 思春期および新成人を対象とした禁煙薬物療法試験における大麻とアルコールの併用について		
執筆者		
McClure EA, Baker NL, Hood CO, Tomko RL, Squeglia LM, Flanagan JC, Carpenter MJ, Gray KM.		
掲載誌		
Nicotine Tob Res. 2020 Jul 16;22(8):1374-1382. doi: 10.1093/ntr/ntz170.		
キーワード		PMID
喫煙、大麻、アルコール、無作為化臨床試験、バレニクリン		31612956
要 旨		
目的： 若年者を対象に禁煙指導を行い、大麻とアルコールの併用が禁煙に与える影響、期間中の併用状況の変化、バレニクリンの二次的影響を評価することを目的とした。		
方法： 対象は2012年9月～2017年11月にかけて、サウスカロライナ州チャールストンのコミュニティから募集した14～21歳の青少年喫煙者（N = 157、平均年齢19歳、女性40%、白人76%）とし、12週間のバレニクリン服用無作為化臨床試験を行った。タバコ、大麻、アルコール使用のデータは、治療中毎日の記録と、治療後14週間のTime Line Follow Back (TLFB)法により収集した。統計解析は治療割付、介入前の1日喫煙本数、性別、試験訪問を調整因子として、サンドイッチ分散推定を用いたロジスティック回帰モデル、反復測定ロジスティック回帰モデルを用いて、リスク比（RR）と95%信頼区間（CI）を算出した。		
結果： 介入前の大麻併用者（68%）は、非大麻併用者と比較して、試験期間中の喫煙継続リスクが高く（RR 2.0 (95%CI : 1.1–3.6; p = 0.021)）、介入終了後も同様であった（RR 2.2, 95%CI : 1.1–4.5）。特に男性・大麻使用頻度の高い者において喫煙継続割合が高かった。介入前の飲酒併用者（80%）は、非飲酒併用者と比較して、喫煙継続割合に差はなく（RR 0.6 (95%CI : 0.3–1.3; p = 0.21)）、介入終了後も同様であった。これらの関連に性別および飲酒量の交互作用はみられなかった。大麻および飲酒併用は禁煙に対するバレニクリン有効性に影響はなかった。		
結論： 若者の禁煙治療は、他の物質の併用状況、特に大麻に焦点を当てること有益であり、禁煙率の低い若者に応じた対策が必要である。		